

# 令和7年度 関東東海北陸農業試験研究推進会議 土壌肥料推進部会 秋季研究会開催要領

関東東海北陸農業試験研究推進会議 土壌肥料部会長  
農研機構中日本農業研究センター温暖地野菜研究領域長 唐澤敏彦

## 1. 趣旨

令和3年5月に「みどりの食料システム戦略」が農林水産省により策定され、2050年までに農林水産業のCO<sub>2</sub>ゼロエミッション化の実現を目指すことが示された。温室効果ガスの削減に向けた取り組みとしては、水田の水管理によるメタン削減、省エネ型施設園芸設備の導入などのほか、農地、森林、海洋への炭素の長期・大量貯蔵が期待されている。このうち、農地土壌への炭素貯留については、堆肥、緑肥等の有機物の施用による土づくりの推進のほか、バイオ炭の農地土壌への投入技術の開発が期待されている。これまでに、各種バイオ炭資材の特性評価やその農地施用による作物生育への影響の分析が進み、バイオ炭資材の開発やその農地への施用技術の開発が進められてきたことから、本研究会では、バイオ炭利用に関する近年の研究開発を紹介するとともに、今後の課題、方向性等について検討する。

## 2. 開催日時

令和7年10月7日（火） 13：15 ～ 17：00（秋季研究会）

10月8日（水） 8：25 ～ 12：00（現地検討会）

## 3. 開催場所

### （1）秋季研究会（1日目）

千葉市文化センター5階セミナー室（千葉市中央区中央2-5-1）およびオンライン

### （2）現地検討会（2日目）：8:25 JR千葉駅出発、貸切バスで移動

- 1）JA市原市姉崎蔬菜組合（千葉県市原市）
- 2）千葉県農林総合研究センター（千葉市緑区）

## 4. 共催

関東東海土壌肥料技術連絡協議会

## 5. 研究会プログラム

テーマ：バイオ炭の利活用技術と応用展開

### （1）バイオ炭の利活用とJ-クレジットについて

岸本 文紅 氏（農研機構 農業環境研究部門）

### （2）バイオ炭を活用した地域循環型モデルの構築（仮）

竹下 光雄 氏（株式会社長大 事業推進本部）

### （3）山梨県での4%イニシアチブの取り組みについて

山崎 修平 氏（山梨県総合農業技術センター）

#### (4) 事例紹介

1) ネギ圃場へのバイオ炭施用に向けた取り組み

鈴木 結花 氏 (千葉県農林総合研究センター)

2) GI 基金事業における取り組み (水稲関係)

白土 宏之 氏 (農研機構 中日本農業研究センター)

3) 炭化鶏ふん資材を PK 資材として活用した野菜栽培の試み

-地温からバイオ炭の効果を解明する-

垣内 悠太郎 氏 (農研機構 中日本農業研究センター)

4) 北総 cool-village と環境保全型野菜の販売

喜屋武 誠司 氏 (北総クルベジファーマーズ/有限会社ゆうき)

#### (5) 総合討議

#### 6. 参集範囲

関東東海北陸地域各都県行政・普及・試験研究機関、農林水産省消費・安全局、農産局、農林水産技術会議事務局、関東農政局、北陸農政局、東海農政局、大学、民間企業、(独)農林水産消費安全技術センター、農研機構、その他部会長が認めるもの

#### 7. 連絡先

研究会事務局：農研機構中日本農業研究センター 温暖地野菜研究領域 徳田 進一

(TEL：029-838-8958、E-mail：carc-soil\_autumn-meeting@ml.affrc.go.jp)

現地検討会事務局：千葉県農林総合研究センター 土壌環境研究室 室長 山本 幸洋

(Tel：043-291-9990、Fax：043-291-5319、e-mail：y.ygmt7@pref.chiba.lg.jp)

#### 8. その他

参加申込み、オンライン参加 URL 等については、事務局より別途連絡する。